a whaling ship
ほげい船

基本理念

私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開していきます。

独立行政法人
国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

新年度を迎えて

― 意識の変革を ―

NHO高知病院　院長
大串　文隆

毎年のように人事異動の季節となり、高知病院に多大な貢献をしてくれた多くの仲間が去り、寂しさは残っておりますが、新しいメンバーを加え新年度がスタートしました。我が国では４月は、入学式、入社式などが行われ、年度の始まりとして特別な月とされています。しかし、今年は３月11日14時46分、我が国に甚大な被害を与える未曾有の東日本大震災が発生し、津波の怖さを実感するとともに、引き続く福島原発の放射能問題など混乱の中、新年度を迎えました。震災により亡くなられた方々には哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

高知県においては遠くない将来、南海大地震が起こると言われています。しかし、専門家においても発生時期の予想は難しく、明日にも起こるかもしれません。いつ起こっても対応できるような体制作りが喫緊の課題と言えます。以前より防災体制を整えるため、DMAT（災害派遣医療チーム）の立ち上げを考えておりましたが、指定の研修会への参加等の条件をクリアできず延び延びになっておりました。今年に入りやっと最初のチームができ、３月17日県庁にて県との協定が結ばれ、同時に災害拠点病院として認定を受けました。同日夕方、高知病院のDMATは、岩手に向かって出発し、陸前高田市にて任務を遂行した後21日無事帰高いたしました。彼らの経験をもとに、複数のDMATを立ち上げ、来るべき災害に対処できるよう、今年度は防災対策の強化を図りたいと思っています。

災害拠点病院の認定に加えがん診療連携推進病院に認定されたことも病院にとって大きな進歩と言えます。高知県西部のがん診療の中心の病院として、CT、MRI、マンモグラフィなどの診断機器や放射線治療装置の充実を図り、診療面でも多くのがん患者さんの治療に当たってきておりました。がん拠点に準じる病院と認知されたことで、今後はより機能強化を行いがん拠点病院になるよう努めていきたいと思っています。今年は人事で移動したメンバーが非常に多く、特に医師は約４分の１が入れ替わりました。新しい病院にスムーズに溶け込み、古い体質を吹き飛ばす新しい風を吹き込んでいただきたいと思っておりますし、さらに、地域の医療関係者との綿密な関係を早く作り上げてくれることを期待しています。

医療環境は、大きく変化してきており良質で効率よい医療が要求されています。高知病院も遅ればせながら４月からDPC対象病院になり、医療の質の評価を受け、他施設との比較もなされるようになります。病院職員の皆さんがこの医療環境の変化を感じ取り、意識を変革し、前向きの姿勢で同じ方向に向かっていくことで病院を次のステップに発展させることができると思っております。高知病院も開院して10年を過ぎました。今年度は次の10年に向かっての再出発の年にしたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

新医師紹介

外科 医長　福山　充俊

4月1日より当院で勤務させていただいております福山充俊（ふくやま　みつとし）です。出身は徳島県徳島市です。徳島大学を卒業後、徳島大学第1外科（現　消化器・移植外科）に入局し、四国四県の関連病院を回ってきました。前任地は高松市民病院です。今回高知県に来たわけですが、実は当院には平成7年に4カ月だけ研修医として勤務したことがあります。その当時は古い病院で、今とは全然違いましたし、敷地内の官舎に住んでいましたが、2階建の一軒家でこれもかなり古いものでした。当時勤務されていた先生方のなかには、今も勤務されている先生が3人ほどいらっしゃいます。当時の若かった看護師さんも今は立派な役職につかれているようです。今回は新しい病院となり、その当時よりは仕事はできると思うので、心機一転頑張りたいと思います。

外科は今回大幅に人事異動がありました。年齢的にもかなり若返り、同世代のメンバーがそろっています。経験不足のところはあるとは思いますが、分をわきまえつつも、できるかぎりのことはしたいと考えています。

まだまだ若輩で皆様にご迷惑をおかけすることもあると思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

皮膚科 医長　三好　　研

4月より永野先生の後任として赴任してまいりました。出身は岡山市ですが、高校、大学とも高知で過ごしているため、高知は第2の故郷です。高知大学医学部皮膚科学教室で研修後、県立安芸病院に5年間勤務し、3年前に大学に戻ってからは、乾癬という難治性の皮膚病の新しい治療薬の研究を行っておりました。趣味は1/43スケールのモデルカーの収集とF1観戦、それからデザインすることです。患者さん主体の診療を心がけております。外来待ち時間短縮のため第1水曜日以外は8時30分より診察しております。ご存じのように我が国においても医療費の増加が社会問題となっております。民間病院でありがちな不必要な手術や入院治療は行いません。皮膚癌の早期発見に有用なダーマスコピーも導入しました。皮膚のトラブルで悩んでいらっしゃいましたら、どうぞ気軽に受診してください。

耳鼻咽喉科 医長　関根　和教

4月より当院に勤務させていただいています関根和教（せきね　かずのり）です。10年ほど前に高知農協病院（現JA高知病院）に勤務しており、久しぶりの高知です。当時に比べると、出来ていなかった道がつながっていたり高知駅周辺が整備されたりとずいぶん便利になったなあという印象です。アウトドア系が好きでスキーやラフティングなどよく行っていましたが、最近は時間がなくあまり行くことが出来ていませんでした。おかげで体重も以前いたときに比べるとずいぶん増え、運動しなおさなければと思っている今日この頃です。臨床では日本めまい平衡医学会の専門会員で、赴任前の徳島大学病院では10年間めまい外来を担当していました。耳鼻咽喉科に関してはしばらく常勤がいない状態が続き、いろいろご迷惑をおかけしました。現在のところまだひとり常勤の状態ですので、可能な手術には制限がありますが、頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

外科医師　山﨑　誠司

4月1日より国立病院機構高知病院勤務となりました。前任地では腹部救急を中心に消化器外科に携わっていました。高知県出身ですが大学卒業後、高知県内の病院に勤める機会がなく20年振りに故郷に帰ってくることができました。どこまでも広がる太平洋の海を間近で感じることができるようになり、何かしら安らぎを感じます。やはり生まれ故郷はいいものだなあとしみじみ思います。道路を含め高知市内の様子も様変わりしており、これから家族ともどもいろいろ散策しようかなと考えています。

さて、今回の人事異動で高知病院の外科は大幅に入れ替えとなりました。医師不足が叫ばれる中、総勢6名の外科医が集まることができました。私と年代の近い先生ばかりで、これから力を合わせて外科、呼吸器外科を盛り上げていこうと思います。外科手術はもちろんですが、自分自身これまで携わってきた腹部救急、外来化学（抗がん剤）療法、緩和ケアは大事にしていこうと思っています。今後とも末永く宜しくお願いします。

外科医師　井川　浩一

4月1日より当院で勤務させていただいております井川浩一（いかわ　こういち）と申します。

出身は徳島県美馬市です。平成7年に徳島大学を卒業し、徳島大学第一外科（現　臓器病態外科）に入局しました。徳島大学大学院を卒業後、徳島市民病院、JA徳島厚生連麻植協同病院、徳島県立中央病院、佐川町立高北国民健康保険病院、健康保険鳴門病院、JA徳島厚生連阿南共栄病院、徳島市民病院（2度目）を経て、本年度より当院に赴任しました。

高知は7年前に1年間勤務した高北病院以来2度目になりますが、気候も人も温かいという印象です。家族（妻、小学5年の長女、小学2年の長男）で越してきましたが、龍馬ゆかりの名所を巡ったり、おいしい鰹や鰻を食べるのを楽しみにしています。あと高知といえば酒というイメージですが、溺れない程度に楽しめたらと思っております。仕事の方は、まだ、働き出したばかりで何ともいえませんが、病院スタッフは優しい方ばかりで、いろいろと教えてもらって感謝の日々です。一日も早く慣れて戦力になれればと思います。これからも御迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

整形外科医師　田村　竜也

4月1日より当院に勤務させていただいております田村竜也（たむら　たつや）と申します。

以前には厚生連麻植協同病院、高松赤十字病院、四国中央病院、徳島大学病院など四国各県で勤務後、2年前に高知に戻り高知医療センターでの勤務を経て当院に赴任しました。

生まれも育ちも高知市で、もともとはバリバリの土佐弁をしゃべりますが、他県での生活が長かったため各県の方言が少し混じってしまうことがあります。最近は龍馬伝の福山のようなおしゃれなアクセントの土佐弁を修得するよう練習中です。

大学病院では脊椎グループに所属しておりました。当院では骨折などの外傷疾患のみでなく脊椎・人工関節（股関節・膝関節）・肩腱板損傷などの慢性疾患の手術も多く、整形外科全般の診療につきがんばっていきたいと思います。

未熟で至らない点も多く大変ご迷惑をおかけしますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

小児科医師　井上　和男

この4月より徳島県つるぎ町立半田病院小児科より当院に赴任しました井上和男（いのうえ　かずお）です。

実は昨年3月まで6年間当院で勤務した経緯があり復帰したというのが正しいのかもしれません。いずれにしましても改めて高知市西部の小児医療に貢献できれば幸いと考えております。個人的にも高知の気候風土に惹かれる面が多々あり、特に時に痛みを増す腰痛にも温暖な気候がありがたいと感じているところです。

最後に自らの老眼と腱鞘炎に打ち勝ち、階段の上りに息切れしながらも、しっかり気持ちを鼓舞しながら毎日の小児科の仕事に励むつもりです。疲れている素振りがあらば一言気楽に声をかけてやってください。あらためて宜しくお願いいたします。

小児科医師　玉城　　渉

はじめまして、4月から小児科で働いております玉城　渉（たまき　わたる）と申します。

3年前に当院で働いていたこともあり、親しみやすく仕事がしやすいと感じております。

高知医科大学を平成11年に卒業し、以後は小児科診療のみ携わってきました。小児医療を一通りこなすことはできるようになったと思っている反面、見たこともない様な疾患に遭遇し、重責にかられながら専門医に相談し、雑誌、文献を読んで治療していくこともありました。機会があって、一昨年から小

児循環器を2年間勉強させていただきました。まだまだ、勉強しなくてはいけない事が多いものの、時間の限りもあります。時間を上手く活用し、他科の先生にもご相談しながら不健康にならない様、仕事していきたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

呼吸器科医師　**中野万有里**

はじめまして。4月から当院で勤務させていただいております中野万有里（なかの　まゆり）と申します。

出身はお隣の徳島県です。

徳島大学を卒業後、二年間の卒後臨床研修を経て、徳島大学呼吸器・膠原病内科に入局しました。

徳島大学病院・徳島県立三好病院・JA高知病院に勤務し、本年度より当院へ赴任いたしました。専門は呼吸器内科です。

高知で暮らし始めて3年目となります。やっと土佐弁にも慣れてきました。

2011年3月11日の東日本大震災を境にして、世の中は全く違ってみえるようになりました。南国土佐のみならず、日本中が安心して平和な日常を一日も早く取り戻せるよう祈る毎日です。

日々の診療では一人一人の患者さんにあたたかく接するよう心がけております。

まだまだ医師としては未熟でありますが、先生方、スタッフと協力して、少しでも良い医療を提供できるよう努力、研鑽してまいります。

よろしくお願い申し上げます。

呼吸器外科医師　**高嶋　美佳**

4月より、当院で勤務させていただいております高嶋美佳（たかしま　みか）です。

簡単に自己紹介させていただきます。出身は香川県です。徳島大学を卒業し臨床研修を終えた後に外科を専攻、前勤務地の徳島大学病院より移って参りました。

高知県での生活は初めてですが、以前、四万十川でカヌーをしたり、キャンプをした際には温暖な気候と大自然を存分に楽しんだ記憶があります。体を動かすこと大好きで、また食べ物が豊富で美味しく、活気のある県での生活をとても楽しみにしております。まだ高知に来て間もないですが、聞き慣れない土佐弁で話しかけてくださる高知の方々は、皆様非常に優しく大変嬉しく思っております。早く土佐弁に慣れ、高知の名所もぜひ訪れたいと思います。

外科医としてまだまだ未熟ですが皆様に御指導いただきながら多くの事を吸収し、少しでも貢献できればと思います。至らない点もあるかと思いますが、精一杯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

消化器内科医師　**岸　久美子**

4月から当院で勤務させていただいております岸久美子（きし　くみこ）と申します。

出身は徳島県三好市です。徳島大学を卒業後、高松市民病院と徳島大学病院で初期研修をさせていただき、消化器内科に入局後2年目になります。出身が高知県に近いため、幼少時桂浜や日曜市など家族で訪れていたことを懐かしく思い出しています。高知は海がきれいだと伺って、スキューバーダイビングや長年の夢であるホエールウォッチングにチャレンジしたいと思っています。

当院で勤務させていただくようになり、日々先生方やスタッフの皆さんの優しさに触れ本当にありがたく思っています。まだまだ未熟ですが、患者さんとしっかりコミュニケーションをとりながら初心を大切に頑張っていきたいと思いますので、ご指導の程よろしくお願い致します。

産婦人科専修医　**菊地真理子**

4月1日より当院で勤務させていただいております、菊地真理子（きくち　まりこ）と申します。

生まれと育ちは高知県高知市で、高校卒業までは当院近辺に住んでいました。佐賀大学に入学し、卒業後、京都府立医科大学付属病院で2年間の初期臨床研修を終え、当院産婦人科で勤務することになりました。

高知に住むのは9年ぶりになります。高知に戻ってきた当初は、耳に入ってくる土佐弁や目に入る風景など全てが懐かしく感じておりました。近頃はやっと土佐弁を思い出し、自分でもしゃべれるように

なってきたところです。また、病院スタッフ皆様のおかげで、少しずつ現在の環境に慣れつつあります。
　産婦人科としては１年目で、まだまだ至らない点ばかりですが、他の産婦人科の先生方のご指導のもと修練に励んでいくつもりです。どうぞよろしくお願いいたします。

産婦人科専修医　**原田　裕子**

　４月１日より当院にて勤務させて頂いております原田裕子（はらだ　ゆうこ）と申します。
　平成19年３月に徳島大学医学部を卒業後、兵庫県の市立川西病院で初期臨床研修を受けました。
　その後、同じく兵庫県の市立伊丹病院の産婦人科で専攻医としてこの３月まで勤務しておりました。
　今回は、産婦人科専修医として採用して頂きました。
　昭和38年生まれで東京で育ちました。
　38歳まで専業主婦をしていましたが、その後医師を目指しました。
　超高齢専修医であり、何かと皆さまにご迷惑もおかけするかと思いますが、年齢に関係なく採用頂けたことに感謝して、精一杯頑張りたいと思います。
　高知病院は、私が徳島大学６回生の時に、学外実習で１カ月間産婦人科でお世話になった病院であります。その時に素晴らしいお産をたくさんみることができたことが、私が迷いなく産婦人科を専攻に選ぶ原動力となりました。
　その病院で専修医として勤務することができ、本当に幸せです。
　まだまだ未熟で至らない所ばかりでありますが、今後ともどうかよろしくお願い致します。

総合案内を設置しました

副看護部長　**矢野いづみ**

　当院は、平成23年１月に国立病院機構香川小児病院と「めざせ!! マグネットホスピタル」というテーマで合同研修会を実施しました。病院を活性化させるために様々な意見を話しあい、その中で総合案内の設置案がだされました。そこで看護師長会で「病院内で困ったり迷ったりする受診者を作らない」「誰にでも親切な病院をめざす」を形にするために早急に総合案内を設置しようと計画し、４月１日から、看護師長による総合案内を開始しました。
　総合案内の目的は、「適切な受診診療科相談、診療手続きの案内を行う。安心できる受診環境を整える」としました。３月までは、非常勤による総合案内担当が実施していましたが、受診診療科相談等への質問については、対応が難しい現状もありました。今後は、看護師長が総合案内を担当することで、スムーズに外来受診をしていただくことができると考えています。また、当院は、地域に信頼される病院を目指しており、病院スタッフは、受診者に細やかな対応が提供できるよう取り組んでいます。特に外来は、病院の顔であり最初の印象が病院に対する今後の印象を決めてしまうほど重要です。開始にあたり、看護師長会で、総合案内について話し合い、どのような対応が必要か共通認識をしました。
　実際に開始すると、どこの科を受診したらよいか迷っている受診者への相談、診療科医師の問い合わせ、紹介患者さんの誘導などの対応がありました。看護師長から積極的に声をかけることで受診者のニーズに迅速に応えることができ、声に出せないが困っている方が多いということも再認識できました。
　４月は、新人看護師が、総合案内の経験ができるよう計画しました。新人看護師は、「受診者された方がどんなことで困っているかイメージできなかったが、総合案内をすることで理解できた。」また、「親切にありがとう」「わからなかったので案内があっていいですね」と声をかけられ、思いやりや、気遣いが大切であると気づくことができており教育の場ともなりました。
　今後も、受診者一人ひとりに目配り、気配り、心配りができ、当院に来られた方が安心して受診できる環境作りを目指していきたいと考えています。

東日本大震災における ＤＭＡＴ活動を通して

主任臨床工学技士　林　　博英

目印の駅が見当たらない…道端には横転した自動車…瓦礫に埋もれたコンビニエンスストア…DMAT隊員５名を乗せた車は出発から25時間後の夕刻、陸前高田市内、津波によって流された瓦礫の山の中を走っていました。静かな車内、「市役所を探そう」日野医長の声が響きました。

東日本大震災に対し、当院DMATは厚生労働省から出動要請を受け、津波により甚大な被害を受けた岩手県の陸前高田市において活動しました。

陸前高田市市役所は津波の被害を受けたため、高台の給食センターに災害対策本部の機能を移していました。本部から、避難所での診療活動を要請され、到着早々診療活動を開始しました。避難所も高台に位置していましたが、そのすぐ側まで津波の被害は迫っていました。

活動期間中、避難所や県立病院の仮診療所、老健施設等を廻り、津波にのまれ負傷された方や避難所での生活で健康を損なわれた方、100名近くの方々に診療を行うことができました。

大きな「DMAT」ワッペンを付けた服装、ヘルメットにゴーグル。テレビでご覧になられた方も多いと思います。瓦礫の下に潜り込んでの医療に備えるため、あのような服装や装備が必須です。

DMATは、阪神淡路大震災の際に問題となった「避けられた災害死」を減少させるべく、厚生労働省により発足しました。「災害急性期（概ね48時間以内）に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義され、災害発生後に厚生労働省や被災した都道府県等からの派遣要請により出動します。医師・看護師・調整員、５名で１チームを基本に編成されます。

当院のDMATは、本年１月に日本DMAT隊員養成研修を受講、３月に高知県とDMATの派遣に関する協定を締結しました。医師１名（日野呼吸器外科医長）、看護師２名（深木５階南副看護師長・河村手術室看護師）、調整員２名（林主任臨床工学技士・三﨑給与係）の５名編成です。

医師や看護師は既知の職種ですが、DMATでは、医師や看護師以外は薬剤師であれ臨床工学技士、事務官であれ、調整員と呼びます。調整員は医師・看護師の後方支援、交通手段・通信手段・隊員の衣食住の確保などを担います。DMAT活動はもちろん、被災地の方々に迷惑をかけない「自己完結型」を完遂するため、また隊員の安全・健康保持のため縁の下で活動します。

現在明らかになりつつある被害の実態に比べると、我々チームが行った活動は微々たるものです。あの時見た光景、感じた無力感は今後頭から離れることはないかもしれません。

当院は、高知県とのDMAT派遣に関する協定を締結すると同時に、災害拠点病院の指定を受けました。高知市が甚大な被害を受けると想定されている南海沖地震に対し、当院は災害拠点病院としての責務を果たすべく、日頃の訓練・対策により、災害時においても地域の方々に信頼していただける病院とならなければなりません。

「隊員だけが活動しているのではない。周囲の強力な支援があってこそ活動できる。」我々チームの出動を激励して下さった地域の皆様、病院職員の皆様、そして家族に…多くの方々の温かさにこの場をお借りし、感謝申し上げます。

地域医療連携室だより

―手作りリーフレットのご紹介―

地域医療連携室主任医療相談員　長浦　英世

昨年度より、当地域医療連携室では、連携施設のリーフレットを作成しております。

地域医療連携室スタッフが、慣れないPCを駆使して作成した手作り感あふれるリーフレットです。その中から、一部ご紹介いたします。

リーフレットは外来に設置閲覧、広報誌に掲載、必要時患者さんに配布等させていただいております。地域医療連携室では、上記リーフレットにご賛同いただける施設を募集しております。下記連絡先までご一報下さい。

地域医療機関の皆様へ

患者さんのご紹介・現在入院中の患者さんの問い合わせ・リーフレットについて 等…

088-828-4465　地域医療連携室までご一報下さい。　平日 8:30~18:00まで対応いたします。

高知病院・香川小児病院との合同研修について

前庶務班長　末久　浩二

日　時：平成23年 1 月29日(土) 13時～
1 月30日(日) 12時
場　所：「かんぽの宿伊野」
（高知県吾川郡いの町波川1569）
対　象：医長・看護師長・各職場長
（両病院合わせて 57名）
テーマ：『 目指せ!! マグネットホスピタル』

当院の「医療の質の向上」と「経営健全化」のため、組織、職員個々の医療サービス・患者サービス・経営改善・医療安全等に関する意識改革と業務改善の実践による活性化をはかろうと、21年6月に「活性化推進委員会」を立ち上げています。

昨年度は、12月23日(水)に、高知市内の「三翠園」を会場として「活性化合同研修会」を行いました。多職種の方々を一堂に会し、当院活性化に向け検討し合うといった「初の試み」でしたが、職員の皆様方から数多くの貴重な意見・提案等をいただき、各種検討を重ねまして、現在、“３メートル挨拶運動の実践、オアシス運動、院内LANの整備、ホームページの充実”等々、数多くのアイデアを取り入れさせて頂いているところです。

さて、今年度の研修ですが、趣向を少し変え、より大きな相乗効果を期待し、「四国内NHO病院との合同研修」という形にしました。香川県善通寺市にある「NHO香川小児病院」は毎年、年間５回もの「宿泊研修」を行っており、今回はその５回目ということで、一緒に進めさせて頂きました。

開催にあたり、両院長先生よりご挨拶を頂きました。

続いて、内容ですが、『病院の「強み・弱み」を分析し、「強み」はより強化し、「弱み」は補強し「強み」に変えていく（明日から取組み可能な即効性のある改善策を導き出す)』という共通テーマのもと、７グループ（高知４・香川小児３グループ）に分かれてグループワークを進めました。

さすがです！「各職場のリーダ」が今回は研修対象ということもあり、あっという間に、各病院の「強み・弱み」を分析され、パワーポイントにまとめ発表されました。その後の質疑等の時間も、両院長先生を中心とした活発な意見交換を頂け、予定終了時刻を30分もオーバーしてしまいました。

その後は、“懇親会（意見交換会）”です。美味しい料理を頂きながらの楽しいひととき。楽しいゲームも用意され、知らぬ間に23時（入浴は24時までです、急いで下さい）。あと、サッカーの対オーストラリア決勝戦、「ボレーシュート」爽快でしたね。

さあ、グループワーク２日目です。

明日から取組み可能な即効性のある改善策を導き出しましょう。

素晴らしいアイデアを盛りだくさん頂きました。

おみやげとして持ち帰り、活性化委員会で、検討しましょう。職員の皆様にお配りしましょう。

ということで、皆様大変お疲れ様でした。

多職種を交えて、更には他院も含めた形での「宿泊をはさんだ研修」。なかなか楽しかったです。人事交流　親睦も図れ、本音も言いました。また、やりましょう。

皆様から頂いた貴重な意見は「病院の宝物」です。

職員皆の手で磨きをかけて、まぶしく輝かせていきたいですね!!

MRI検査室での患者急変時の対応

副診療放射線技師長　新地正美智

MRI検査におけるリスクマネージメントは、他部署と同様なリスクマネージメントに加え、MRI装置が強い磁場を有するので、他部署にはない特殊な対応が必要となります。また造影剤を毎日多くの患者に使用しており、造影剤漏れを含む副作用対策が重要であることが考えられます。

患者さん急変時に迅速で安全的確な対応のためにマニュアル化する必要があると考えました。そのためMRI検査室で患者さん急変時のシミュレーションを行い、その対応を明確にする必要がありました。今回、医療安全管理室に協力をいただき、問題点を検討しマニュアルの見直しを行いました。

MRI検査におけるリスクマネージメントの多くは、最終的に現場のスタッフによる水際の対応に頼っているのが現実であると思われます。したがってMRI検査時における緊急事態、患者様急変時の医療事故防止に対する放射線科スタッフの安全かつ迅速な対応を明確にし、具体的に内容を理解できるような研修会にする必要があり、予め研修会用に人員配置、検査内容を設定したものではなく、日常診療時の人員配置の状況、造影検査中の患者急変という設定で行いました。今回の研修会を行う上で以下の内容に留意しました。

①　できるだけ問題点が発見できるように事前の打ち合わせは最小限にした。

②　後で見直し理解を深めるために、手順を図式化したものを事前に配布した。

③　ロールプレイング終了直後に、それぞれの役割の立場からの意見を交換してもらい問題点を検討する。

MRI検査室に到着した他部署の最初の職員は、ハリーコールを要請してから５分後であったため、急変した患者を救急外来へ搬送完了後にMRI検査室へ到着していることとなります。

このことからも他部署からの医師、看護師の応援を待って処置を始めるより、設備の整った救急外来へ搬送して処置を行う方が、治療に対する有意性があると考えられます。MRI磁性体吸着事故防止の点からもMRI検査室、前室で処置を行うより、救急外来での処置が望ましいと考えます。

今回の研修会は放射線科のスタッフに加え、他職種の職員が多数参加し、放射線科だけでは発見できない気づきがあり、とても有意義な研修会でした。最後に、この研修会を行うに当たり、駆けつけるスタッフの役割を演じるために３階から全速力で階段を下りてきてくださった事務の方々、鋭い指摘を多数くださいました看護師の方々、ご指導いただいた小松幸久放射線科医長、医療安全管理室山崎隆志医長、森山万智RMに深く感謝いたします。

平成22年度　第７回 医療安全研修

第61回 高知病診連携フォーラム「輸血事故防止対策を学ぶ」

血清主任　森本　直子

平成23年２月23日、「輸血事故防止対策を学ぶ」をメインテーマに医療安全研修と高知病診連携フォーラムが開催され、私は院内医療安全研修の講師を務めさせて頂きました。現在当院では、輸血事故防止のため輸血実施手順書に従って行い、記録には輸血実施表を活用しています。輸血実施表は単に記録の統一化だけでなく、安全に実施するための確認事項のチェックも兼ねています。検査科では、輸血の実施状況や副作用の有無も把握して輸血管理を行っています。副作用の有無に関係無く全例報告して頂くことで情報共有し管理が可能となります。手順書

に従って二重三重のチェックを確実に行い安全・確実な輸血療法を行うことは勿論のこと、職種間の連携をとりながら実施していく必要があることも理解していただきたいと思います。また、病診連携フォーラムには和光純薬工業㈱　認定輸血検査技師の原邦雄先生を講師に迎え、“血液製剤の取扱にかかわる知識を高め、輸血事故対策を考える－輸血事故やその判例から正しい取扱を理解する－”のサブテーマでご講演いただきました。輸血に必要な知識や過去の輸血事故の情報等を分かりやすく説明して頂き参考になったと思います。当日は院内だけでなく、院外からもたくさんの方に参加して頂き、輸血のリスクと医療安全対策の重要性を実感しました。

感染症の話

感染管理認定看護師　副看護師長　原　　昭恵

春は１日の気温の変化が大きく、新年度に合わせ生活環境が変化することもあり比較的体調を崩しやすい時期といえるため注意が必要です。

＜表：季節による感染症流行状況＞

高知県健康政策部衛生研究所ホームページより

季節により流行する感染症の特徴としては、

○夏から秋に流行するもの：蚊などの虫、プールなどの水または物を介してうつる

○冬から春に流行するもの：くしゃみや咳、鼻水などが出て空気や物を介してうつる

などがあります。

（参照＜表：季節による感染症流行状況＞）

インフルエンザについては高知県内の総数は２月をピークとして減少していますが、注意報値を超える流行は続いており、当院ではＢ型の陽性率が高くなっています。１年を通して注意が必要な疾患としては突発性発疹や流行性耳下腺炎などがあります。いずれも感染予防対策の基本は手洗い・うがい・栄養と睡眠を十分とることです。帰宅時、食事・調理の前などの「手洗い」は、感染対策として大変重要な意義を持っています。日頃から石鹸と流水を用いた正しい手洗い方法を身につけ、あわせて咳エチケットなど日常的な感染防止を習慣化し実践するよう心がけましょう。

感染症は自分がかからないだけでなく、周りの人にうつさない心遣いが流行を拡大させないために大切です。

＜正しい手洗い方法＞

第３回副看護師長成果発表会を開催して

副看護師長　萩野ユカリ

私達副看護師長は、いったい何しているの？という疑問にお答えして、平成20年度から毎年成果発表会を開催しています。最初は、勤務終了後に他部門の方々も含めて和気あいあいと茶話会の感覚で始めた成果発表会でした。第３回を迎えた今年は、勤務時間内での開催となり25名の副看護師長の発表を、２月４日と３月11日の２回に分けて行いました。

１日目は「業務改善」「コスト意識」、２日目は「医療安全」「専門分野」というテーマにおいて、看護サービス・医療安全・経営改善などに関し、意識の改革や業務改善に取り組んだ内容が発表されました。また、認定看護師の活動報告もありました。

１人発表時間３分という限られた時間の中で、１年間の取り組み内容を要約して発表するには、プレゼンテーション能力を必要とされます。発表においては、日頃の忙しい臨床現場の中から問題意識を持ち、自己の目標・課題を明確にしておかなければなりません。それぞれの部署での取り組みやその成果について発表会で情報を共有することで、副看護師長各々が、中間管理職としての役割を果たすための気づきを得ることができました。

私達副看護師長は、患者さんに「心のこもった看護・信頼される看護・安全な看護」を提供できるように、今後もお互いを高め合いながら一丸となって頑張っていきます。

今年も毎年好評の健康フェスタ(第３回)が開催されます。

テーマ	病院と地域でつなごう！！みんなの健康
日　時	平成２３年５月２８日（土）１０時～１５時
場　所	高知市朝倉西町１丁目２番２５号 独立行政法人国立病院機構高知病院
オープニング	１０：００～ 合唱：若草幼稚園児 特別ゲスト：よさこいチーム（ほにや）
市民公開講座	１３：００～１４：２０ 「病院の紹介」　大串　文隆院長 「目の健康」　眼科：戸田　裕子医師 「骨の健康」　整形外科：小林　亨医師 「胃腸の健康」　消化器科：友兼　毅医師 「腎臓の健康」　リウマチ科：松森　昭憲医長 「肺の健康」　呼吸器科：畠山　暢生医長
イベント	健康相談コーナー、体験コーナー、キッズコーナー、バザー、その他、 大人から子どもまで健康を考えるイベントが盛りだくさん
エンディング	１４：３０～ 高知大学奇術部・朝倉中学校吹奏学部

3年生に贈る予餞会!! そして…
卒業式での旅立ち

2年生
溝渕　千真

平成23年３月４日、予餞会を行いました。卒業式を目前に、３年生の先輩方に今までの感謝の気持ちを込め楽しんでもらいたいと思い、１年生と２年生それぞれが何週間も前から計画を立て、準備をしました。

１年生の私たちは、基礎看護学実習の病棟グループ別で、AKB48、嵐、組体操、人文字などを計画して、放課後や休み時間を使い踊りの練習やビデオテープを作成しました。皆の協力の賜で本番では大成功を収めることができました。

２年生は、実習中で忙しい中でしたが、３年生の先輩方や先生方と一緒になって出し物を作成していました。中でも、普段あまり耳にできない先生方のプライベートをインタビューした内容は、学生皆とても盛り上がりました。

予餞会は、３年生だけでなく１年生・２年生や先生方と学校全体で盛り上がれた行事でした。そして、この日は、３年生にとって国家試験を終えたばかりだったので少しの息抜きとなり、また、私たちにとって日頃の感謝を伝えた思い出の日となりました。

そして…３月10日、第46回卒業式が挙行されました。卒業式は、来賓の方や学校関係者・職員、多数の保護者、在校生の見守る中、盛大に行われました。卒業式に出席し、３年間辛いことも多くあったと思いますが、それだけに得たものは大きいと改めて感じました。厳かな中にも心温まる卒業式を迎えた先輩方には、今後、本校で学ばれたことを糧に、臨床において活躍されることを心からお祈りいたします。そして、私たちも後に続くように、今後も頑張りたいと思います。

節分集会

ぽぽてん保育園
保育士　羽方　七絵

保育園では季節ごとに様々な行事を行なっていて、２月３日には「節分集会」をしました。
集会では、元気に「まめまき」の歌をうたう子どもたち！
鬼を退治するゲームにも参加し、鬼退治はバッチリ!?
ところが…突然の鬼の登場に子どもたちはとても驚いていました。
怖くて泣いてしまう子どもや固まってしまう子ども、保育士の影に隠れてしまう子どもなど、表情は様々でした。
しかし、いつも元気いっぱいのぽぽてんの子どもたちは、いつまでも泣いていません！
「鬼は～外！福は～内！」と元気な声で言いながら、鬼に向かって豆を投げ、鬼退治をしました。
大きな笑い声とともに、福の神もやってきてみんなで健康で過ごせるようにと願いました。
昼食では、うさぎ組は一口サイズの恵方巻、ぺんぎん組・りす組では鬼のお顔のランチが出て、みんなでおいしく食べました。

職員の異動

3月31日・4月1日付

定年退職

臨床検査技師長	高橋　幹博
療育指導室長	中平　良介
副調理師長	田井　和子
調理師	山田美恵子
副療養介護長	佐々木千枝
看護師	山本　多恵
看護師	筒井　章子
看護師（助産師）	前田　美鈴
准看護師	本吉　リエ

退　職

脳神経外科医長	新野　清人
外科医長	安藤　　勤
小児外科医長	佐藤　宏彦
小児科医師	山遠　　剛
皮膚科医師	永野　弓枝
循環器科医師	名田　　晃
整形外科医師	久保　貴博
呼吸器外科医師	吉田　光輝
外科医師	小笠原　卓
呼吸器科医師	稲山　真美
看護師長	上田　富美
看護師	細見ひとみ
調剤主任	河野　洋平
薬務主任	森山由紀子
看護師（非常勤）	前田　節子
業務技術員（非常勤：看護助手）	西村ちあき
保育士（非常勤）	松岡　清香

転　出

救急部長	長堀　順二
経営企画室長	菅野　敏男
業務班長	水野　智志
庶務班長	末久　浩二
経営企画係長	渡邊　智雄
一般職員	小野川有香
副薬剤科長	西川　正直
細菌主任	細川　慶司
臨床検査技師	堀川明日香
栄養管理室長	村上　豊司
栄養士	西原　由姫
看護師長	三好　明美
副看護師長	小笠原あゆみ
看護師	井原美由紀
看護師	賎川　和佳
教員	高崎　麗華

勤務延長

副院長	小倉　英郎

採　用

外科医長	福山　充俊
皮膚科医長	三好　　研
耳鼻咽喉科医長	関根　和教
外科医師	山崎　誠司
外科医師	井川　浩一
整形外科医師	田村　竜也
小児科医師	井上　和男
呼吸器科医師	中野万有里
呼吸器外科医師（非常勤）	高嶋　美佳
消化器科医師（非常勤）	岸　久美子
産婦人科医師（非常勤：専修医）	菊地真理子
産婦人科医師（非常勤：専修医）	原田　裕子
薬剤師	宮井明日香
業務技術員（非常勤：臨床検査技師）	福留江里奈
業務技術員（非常勤：栄養士）	下川　亜弥
看護師	池　　真希
看護師	田原　里夏
看護師	市川　綾美
看護師	岡室　陽子
看護師	片岡　由美
看護師	児玉侑利恵
看護師	成岡　沙織
看護師	西岡　史絵
看護師	山岡　梨紗
看護師	山崎　舞薫
看護師	山崎　真弓
看護師	山本あゆみ
庶務係	白石　朋子
業務技術員（非常勤：薬剤師）	氏原　弘洋
児童指導員（臨時的任用）	中平　良介
事務助手（非常勤）能勢　優子	
事務助手（非常勤）甲斐　里美	
事務助手（非常勤）藤田　令子	
事務助手（非常勤）小原眞理子	
保育士（非常勤）　田中　朋美	
業務技術員（非常勤：調理師）	山田　美恵子
業務技術員（非常勤：看護助手）	秋元　友之
業務技術員（非常勤：看護助手）	村川　由香
業務技術員（非常勤：看護助手）	久保　留美

転　入

小児科医師	玉城　　渉
経営企画室長	森　　和法
庶務班長	伊藤　真之
専門職	富山　　隆
経営企画係長	西竹　敬樹
副薬剤科長	幸吉　　明
臨床検査技師長	向井　伸治
細菌主任	山本　珠美
栄養管理室長	和田　博子
療育指導室長	大平　信代
看護師長	西村　美鈴
看護師長	中上美代子
看護師	高木さくら
看護師	上村　　恵

昇　任

リウマチ科医長	松森　昭憲
副調理師長	植澤みさ子
副看護師長	中上　智恵
副看護師長	中野　昌江
副看護師長	森山　由貴
教員	谷内　典子

外来診療担当医表

（平成23年４月12日現在）

■受付時間 8：30 ～11：00　整形外科・火曜日は 8：30 ～10：30 です。　■休診日 土曜・日曜・祝日・12 月29 日～１月３日

国立病院機構のシンボルマーク
独立行政法人
国立病院機構　高知病院
〒780-8077　高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL（088）844-3111　FAX（088）843-6385
http://www.hosp.go.jp./~kochihp
高知病院のシンボルマーク

診療科	区分・診察室番号			月	火	水	木	金
内科	午前	1診	⑫	岸	中野・岡野	篠原	町田・阿部	畠山・中野
		特別外来	⑪	松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後	専門外来						
神経内科			⑰	不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器科 アレルギー科	午前	1診	⑧	篠原　勉	大串　文隆 (リウマチ科も診察)	畠山　暢生	大串　文隆	岡野　義夫
		2診	⑥			町田　久典		
	午後	専門外来					禁煙外来 14:00～15:30(予約制)	
消化器科	午前		⑨	井上・板垣	友兼　毅	板垣　達三	井上　修志	友兼　毅
循環器科	午前		⑦	山﨑　隆志	非　常　勤		山﨑　隆志	
	午後	専門外来					ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科			⑩	松森　昭憲 (糖尿病も診察)	大串　文隆	大串　文隆		松森　昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前	1診	①	小倉　英郎	小倉　英郎	武市　知己	小倉　英郎	武市　知己
		2診	②	大石　尚文	井上　和男	玉城　渉	大石　尚文	高橋　芳夫
		3診	③	玉城　渉			井上　和男	小倉由紀子
	午後	専門外来		神経・発達障害	アレルギー 特殊予防接種	乳児検診	アレルギー・化学物質過敏症 NICUフォローアップ	神経・発達障害 乳児健診
		予防接種		14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)
外科	午前	1診	⑤	大塚　敏広	福山　充俊	山崎　誠司	福山　充俊	井川　浩一
		2診	⑥					
	午後	専門外来			日野　弘之 乳腺外来		日野　弘之 乳腺外来	
整形外科	午前	1診	①	篠原　一仁	兼松　次郎	小林　享	篠原　一仁	田村　竜也
		2診	②					
脳神経外科	午前		⑧	非　常　勤		非　常　勤		非　常　勤
	午後	専門外来						
呼吸器外科	午前		⑦		日野　弘之		日野　弘之	
小児外科	午前		⑤					
皮膚科	午前		⑬	三好　研	三好　研	三好　研	三好　研	三好　研
泌尿器科	午前		⑨	渡邊　裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 久野(偶数週)	笠原高太郎	渡邊　裕修
産科	午前		㉟	米谷　直人	福家　義雄	福家　義雄	小林　文子	原田　裕子
婦人科	午前		㉛	福家　義雄		小林　文子	原田　裕子	米谷　直人
眼科	午前		㉓	戸田　祐子	戸田　祐子	戸田　祐子	戸田　祐子	戸田　祐子
耳鼻咽喉科	午前		⑯	関根　和教	関根　和教	関根　和教	関根　和教	関根　和教
リハビリテーション科								
放射線科				小松　幸久	塩田　博文	松岡　葵	塩田　博文	小松　幸久

※　内科の１診は、月曜日から金曜日まで全て、医師１名担当の交代制となっています。